

## 住宅街に巨大電車?! ~柴崎に刻む旧路線の歴史~



甲州街道から深大寺通り商店街を500mほど進んで、十字路を左手、住宅街に突如巨大な電車(京王電気軌道23形)型のアパートがそびえ立つ!実はこの場所はかつての柴崎駅だったのです。昭和の初期まで京王線は甲州街道より北側を走っていました。その歴史を後世に残したいと、オーナーさんの想いが込められています。オーナーさんのお父様が初めてお蕎麦屋さんを開店した場所でもあるそうです。「これを見に、深大寺通り商店街に多くのお客様に来てもらえたら」とのこと。某有名バラエティでも取り上げられた“珍百景”かもしれません。



「双方向情報紙・調布のミライ」は、調布市で起こっている出来事や今進められている計画を市民のみなさんに伝えるとともに、みなさんが抱える問題を共有し、それを自分事として考え、未来に向けて共に考える情報誌を目指しています。

都市農業について3人にインタビュー ..... 2  
 今、団地暮らしが熱い ..... 3  
 東つつじヶ丘地域の陥没問題 ..... 3  
 柴崎駅周辺のまちづくり ..... 3  
 住宅街に巨大電車?! ~柴崎に刻む旧路線の歴史~ ..... 4  
 調布ミライ塾の軌跡 ..... 4

## 調布ミライ塾の軌跡

調布ミライ塾は政治も宗教も人種も分け隔てなく、全ての市民に開かれた調布ミライ政策会議の社会活動の一つ。皆さんと共に街づくりをしてゆくために、相互学習の機会を創出する場所です。活動家の方が講師としてご自身を振り返る場にもなっています。X(旧Twitter)での情報発信をしております。全てではありませんが、バックナンバーはYouTubeにて公開しております。

日付	ゲスト名	肩書	講演名
2022年10月22日	富澤貴	富沢造園社長	調布の自然、農地や緑の保全、生産緑地問題
2022年11月21日	児島秀樹	グットモーニング調布代表	調布産のハチミツ?! 駅前掃除からのウェルビーイング!
2022年11月28日	小山東博	Farm Koyama代表	オーガニックは地球を救う? おいしい野菜を添えて
2022年12月5日	谷村伴子	日本ハンギングバスケット協会本部講師 NPO法人Green Worksグリーンアドバイザー まちなか緑化士	コミュニティガーデンから始まる調布のまちづくりと今後の課題
2022年12月12日	布目正浩	調布飛行場対策委員、調布史談会その他 世界90カ国訪問	世界から見た調布の市政と風情
2022年12月19日	R.T.	保育士(市内保育園勤務)	子育て環境と育児支援の在り方
2022年12月26日	仲丸裕子	深大寺通り商店街会長	商店街おこしのカードゲーム “十王坂の審理”
2023年1月9日	超辛グランマサラー		ご当地ヒーロー危機一髪!
2023年1月16日	調布市総合福祉センターの移転について考える会	(田んぼの学校 講演延期のため)	移転についての最新状況
2023年1月23日	小寺浩二	NPO法人地域環境科学研究所 理事	調布の水環境について
2023年1月30日	穴戸寿	都立農業高校教員	佐須と有機農法
2023年2月6日	尾辻義和	田んぼの学校校長	佐須の農の風景
2023年2月13日	塩瀬治	自由の森学園元校長	ドイツの環境に配慮したまちづくりのこと、子どもの教育の事
2023年2月20日	照井啓太	公団ウォーカー	地域の中の神代団地の役割とこれから
2023年2月27日	星卓志	工学院大学教授	まちづくりの専門家から見た現在の調布市
2023年3月6日	DJ-HAGGY	マルチタレント	地域FMの必要性と可能性
2023年3月13日	熊谷沙羅	川の図書館館長	私の理想の図書館像



0回目! すべてはここから始まりました。

試食ありで満足度120%!



保育士の現状を知る機会に!

実際にカードゲームの体験会を行いました。

当日限定のオリジナルカレー付きでした!

急遽の登壇をして頂きました。

有機農法でできた野菜の栄養価の高さに驚愕!

30年続く田んぼの学校、今存続の危機!

環境先進国ドイツの環境への配慮に脱帽!

団地が好きすぎて大全集も出しちゃった!



現役高校生が登場! 多くの大人がファンに。



## 若手農業家に聞く! 都市農業の未来とは

「都市農業を守る!」という施策は私いそべが市長選の時から強く訴えてきたものであります。農林水産省のHPにも記載がありますが、都市農業には「首都圏の近くでの新鮮な農作物の提供」「農業体験・交流活動の場」「心やすらぐ緑地空間」「都市住民の農業への理解の醸成」「国土・環境の保全」「災害時の防災空間」といった大切な効果があります。これらは市民にとっても大きな財産であります。自然と人間の生活圏の境界線にある農地は、市街化区域と云えど、人が人らしく生きる為の最

後の砦であるといえます。今の日本の農業はかつてない苦境に立たされています。平均年齢68.4歳、農業法人の平均年収は210万円。さらに調布においては住居が近すぎて近隣住民からなかなか農業への理解を得られない場合もあるようです。なかなか後継者が現れず、若手もあえてそのような業界に進む人は非常に少ないのです。そんな中、市内でも若手の農業家が増えてきました。調布の農業に、明るい兆しをもたらしている3名をご紹介します。

発行：調布ミライ政策会議(代表 いそべ隆)  
 仙川事務所 〒182-0002 調布市仙川町1-15-30南ビル1F  
 編集：調布ミライ政策会議事務局(尾辻・鍛冶・庄司)  
 mail: info@chofumirai.com

私たちの暮らす調布ではいろいろなところで自然を生かした活動や楽しいコミュニティづくりの活動が行われています。また、みなさんと考えたい問題もたくさん起こっています。情報提供や、ご意見などを寄せください。 ※本誌で取り上げている個人、団体は調布ミライ政策会議とは関係はありません。

調布ミライ政策会議では、月2回、土曜日の19時から調布市の歴史や市内の活動・課題などを取り上げた学習会「調布ミライ塾」を開催しています。これまで約30回開催しています。YouTube「調布ミライ塾」で一部公開しています。みなさま、ぜひお気軽にご参加ください。今後のスケジュールは右の2次元コードから ▶ <https://twitter.com/ChofuMiraiJuku>





# 都市農業について3人にインタビュー

## ◆D.Cファーム 相田直人さんに聞く



### ●農業はいつからですか？

大学で経営学を学んだ後、農業の技術をつけるため都内の農園で1年以上働きました。そして昨年からは、父の怪我を機に実家で農業を始めました。農作物ではなく農業体験の販売を行っており、主に水田でのお米作り体験を行っています。

### ●都市農業の問題点や未来はについてどう考えますか？

相続による農地の減少に伴って農業収入が減り、農業を続けられなくなる場合が多いことです。今後も確実に畑と農家は減り続けますが、農家は地域に必要なとされる農業の形を模索していくしかないと考えています。

### ●地域に必要なとされる農業の形は具体的にどういったものでしょうか？

地域に開けたオープンな農園が必要だと考えています。特に農業体験イベントや体験農園のように、人と自然、人と人が繋がれるのが都市農業の大きな価値だと思います。そのため、その日によって色々な人たちが集まって活用できるような畑を目指しています。ただ、まだまだどうなるか、やりながら決めていくつもりです。

## ◆Farm Koyama 小山康博さんに聞く



### ●農業はいつからですか？

うちは江戸時代から調布で暮らしていたようですが、当時から専業農家ではなかったと聞いています。

私は42歳で自動車会社のエンジニアを辞め、就農して14年になります。これまでは小松菜、ほうれん草など葉物野菜がメインでしたが、最近は地元の親子収穫体験などを開催しているため、じゃがいもやさつまいもなども増えてきました。

### ●都市農業の継続にあたり、難しいところはどこでしょうか？

最終的には相続、相続税の話になってしまいます。農業を継ぐ人間は先祖代々の土地をどう守るかに苦心する一方、継がない家族や親族との間で農業への思いが異なり、農業の継続が難しくなる場合もあります。

また畑に住宅が隣接しているため、草刈り機の音や肥料のにおい、土埃などへのクレームも少なくありません。

都市農地は景観の保持や災害時の農地活用、ヒートアイランド現象の緩和などの役割がありますが、それらが市民に伝わっていないことから関心の薄さや理解不足が生じてしまうのかもしれない。

市民にとって農や畑がもっと身近な存在になるよう、これからも情報発信や収穫体験などを続けていきたいと思っています。

### ●都市農業の希望はどんなことでしょうか？

一番の利点は消費者が近くにたくさんいることだと思います。ボランティアとして来てくださる方も増えてきました。最近は農的活動を求める方も多いので、その受け皿としての存在意義は増していると感じます。

また農の果たす役割が若い人たちに再認識されており、食料自給のみでなく、コミュニティの形成、発展のためのツールとして活用されている面もあると思います。

残念ですが、都市農地だけで都市の人々の食料を生産するのは不可能です。だからと言って悲観するつもりはなく、遠くってしまった消費者と生産者の距離を縮めるきっかけを作れるのも、また都市農家なのだろうと感じています。

お互いに理解し合い、歩み寄れば、都市農地存続のための新たな形も見えてくるのではないかと考えています。

## ◆山内ぶどう園 山内美香さんに聞く



### ●農業はいつからですか？

うちは20代続く農家です。私は長女でデザインの仕事をしていたのですが、父が急に亡くなったため農家を継ごうと思いましたが、そこで最初は都の支援センターで1年以上研修を受けました。

### ●ぶどうの摘み取り体験をやっているのですか？

今は観光農園としてぶどう、その他、多種多様の野菜の収穫体験を開催し、普通の販売はしていません。それは、都市農業者として近隣と同じやり方の農業経営ではやっていけないと思ったからです。また、大学でデザインやイベント企画などを学び、そういうことが好きだし得意だと思ったからです。夫も同じ大学でしたので、農業とは全く別の仕事をしています。

### ●家族以外の方に手つだってもらっているのですか？

はい、人を雇うほどの収入にはなっていないのでボランティアさんに来てもらっています。何年も来てくださっている方はイベントの相談にも乗ってくださったりして心強い存在です。

### ●都市農業で気をつかう点などありますか？

ぶどうはどうしても農薬が必要ですから農薬や機械の音でしょうか。ただ、幸いここはアクセスの良い場所ですが、隣接地が高校や駐車場のので助かります。

### ●次世代への継承はどうでしょう

まだ小さいので何ともいえませんが子ども達には自分が好きなことを優先して欲しいと思っています。ただ、どんな形であれ農地として残して貰えたら嬉しいですね。



# 今、団地暮らしが熱い！世代を越えたコミュニティ形成



## 多世代コミュニティ

古くからある神代団地ですが、今、若者のチャレンジングなお店が入ったり、住民たちが主体となり新たな賑わいが生まれています。特に変わったコミュニティスペースであるのは「おふくろさんの花畑」。主催の大隈信孝さんは、ちょっとした花壇に花を植えたり草刈りイベント「草カルンジャー」を組織して楽しくボランティア活動をなさっています。

令和5年10月にはハロウィーンイベントとして仮装した子供達と団地内をパレードし、ゲームでお菓子をもらったりの楽しい1日。市内在住力士の富士泉もスタッフとして参加。

また花畑付近にはイルミネーションも点灯！冬の暗い時期に目につく明かりは野川沿いをジョギングする人達の指針となり、また防犯にもなると喜ばれています。実際にひったくり犯の逮捕につながったとか。住民自治というのはこういう事かもしれません。

これからは自治会とも連携しながら、団地ならではの多世代コミュニティを持続させていって欲しいですね。

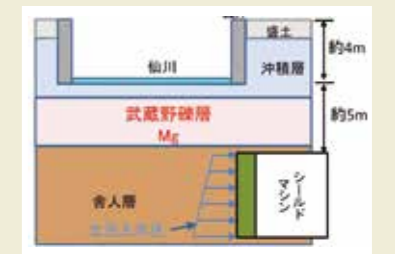
参加希望者は自治会事務局042-486-4292まで。(団地外の方も参加可能)



# 東つつじヶ丘地域の陥没問題や 緑ヶ丘の外環工事は 今、どうなっているの？

2020年に調布市東つつじヶ丘の住宅街で東京外環道の本線トンネル工事を原因とする陥没事故が発生しました。事業者である東日本高速道路は、約30戸の住民を移転させて家屋を解体し、緩んだ地盤補修工事(期間約2年)を2023年8月から開始しました。しかし、工事により地下に注入した圧縮空気が近隣の入間川に噴出して、昨年11月から3か月も工事が中断しています。住環境の安全対策や被害補償が求められています。

トンネル掘進工事は、2022年の「工事差し止め」仮処分決定による本線一部区間約9km以外で、続行中です。調布市緑ヶ丘では、地表の中央高速等につながる直径12mのランプトンネル掘進工事が2024年1月以降開始予定です。仙川周辺の軟弱地盤の住宅地に地盤沈下、振動などの被害を与えたり、トンネル5m上の川底に掘削添加物や酸欠空気を噴出させる可能性があり、地域住民の生活や環境を守ることが重要です。



仙川とトンネルの縦断面図



入間川に気泡

# 柴崎駅周辺のまちづくり

京王線の連続立体交差化が決定し、「開かずの踏切」の改善を含めた柴崎駅周辺が大きく変わろうとしています。景気後退、後継者不足によって店仕舞いを余儀なくされた店舗が増える中、住民と市政が手を取り合い共に「新しい柴崎の街づくり」を考えて行く段階に入っています。

「闇雲に今の街を壊して道路を広げるだけでは柴崎・菊野台の歴史が途絶えてしまうかもしれない。」駅前で商いをされている嶋田理明さんは危惧しています。魅力的な個人店舗が多く残る柴崎駅周辺の再開発は、いかに今の柴崎の魅力を残したまま次世代につなげていくかが肝心です。

「駅前はその町の文化の中心です。この町の文化をのこしつつ、子供から子育て世代・お年寄りまで、この町に住む皆さんが楽し

く安心して利用できる駅前開発を目指して自分の描いた柴崎の未来と一緒に考えて行きたい。例えば柴崎駅前から深大寺通り商店街を抜けて名刹深大寺への観光やハイキングコースの拠点として観光客を呼び込めるような町にしていきたい。駅前に大きな公園を作り、噴水や大きな桜を植えた楽しく安全に過ごせる駅前をしたい。歩行者天国を整備して、休日はマルシェやイベントが開かれるにぎやかな街にしたい。など、街づくりは住民一人一人が主役です。」と嶋田さんは想いを語りました。令和5年3月、柴崎駅周辺のまちづくり協議会が発足しました。次の世代へ自信をもって残せる町にするために各々が想いを届けていきましょう。

